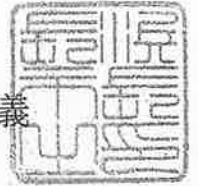




長財第88号
令和4年10月21日

長浜市議会議長 松本 長治 様

長浜市長 浅見 宣義



議会運営に関する申し入れ

令和4年長浜市議会定例会令和4年9月定例会月議会における、9月20日予算常任委員会総務教育分科会にて、押谷與茂嗣議員が、委員長の許可を受け答弁しようとした福永武浩総務部長、柴田拓也総務部政策デザイン課長などに対し、別紙のとおり、①侮辱的またはそれに類する言葉や言回しを用いて発言し、かつ、②答弁中に割り込む、意に沿わない答弁を遮る、大きな声を出し答弁を迫る、または拒否するなど、威圧的な言動により、答弁を阻害した。

押谷與茂嗣議員の言動は地方自治法第132条に反する行為であり、問題視されるべき重大な事案である。市議会として厳格に対処されたい。

なお、この件を含む委員会運営について、押谷與茂嗣議員に事前に話し合いを申し入れたが拒否されたため、議長に対し是正をお願いするものである。

令和4年長浜市議会定例会令和4年9月定例月議会予算常任委員会総務教育分科会

日時：令和4年9月20日（火）13：20～14：02

場所：第1・第2委員会室

出席者：市議会議員 鋒山紀子（委員長）、中川勇（副委員長）、大橋延行、押谷正春、
押谷與茂嗣、北川陽大、高山亨

市当局：福永武浩（総務部長）、森宏志（総務部次長）、柴田拓也（政策デザイン
課長）、山崎悠司（政策デザイン課係長）

審議案件：議案第68号 令和4年度長浜市一般会計補正予算（第6号）のうち、
政策デザイン課に関する部分

※1 侮辱的またはそれに類する言葉、言い回し

※2 威圧的な言動

鋒山委員長：質疑はございますか。

押谷與茂嗣委員：えらいながながと、柴田夢長浜大学プロジェクトの夢を語っていただい
てごろうさんです。ちょっとお聞きしますが、今回長浜バイオ大学のことをおっしゃるのは
十分理解をします。このことがどこからはじまったか原点に返って話をしますと、まず高等
専門学校を最初は高月中跡地、あとは長浜北高跡地、そのあとバイオ大学駐車場跡地と転々
と目まぐるしく変わったなかで、最後はここへ来たかという感じです。それならば、なぜバ
イオ大学のことをそんだけこれ新聞記事にも出てますけど確か5月かに、確かに来ておら
れるのは事実です。なんかにこれだけスリムに物事ができるんなら、いろいろ市民サービ
スの事業やいろんなことがもっとできるはずですよ。これ5月にいわれてはい4か月でこ
んなことができるということは、おたくらどっかから力が働いたか、どういう流れかとい
うことも我々議会に一切なんにも説明がないわけです。バイオ大学からこういう要望がき
ましたということはありませんよ。なぜ、今総合政策課がせんなん仕事はこれだけですか。
私からゆうたらちゃんちゃらおかしいというか、何を考えてるんやと、先程お話しした
エスディーズとか、キュー、カーボンニュートラルとか、いろんな国からの奨励の補助
金のたくさん蛇口のある蛇口のある事業が展開されようとしています。よその市町は
それをいち早く取り入れてやっているような現状です。しかしながらなぜにこれにこ
だわって、あくまでなんかバイオ大学を公立化するのが当たり前のような、今の話
やないけどスマートインターまでできるかできんかまだわからない状況のなかで
そこまでシュミレーションを描いてやる、描いて、説明がありましたけども、私は
どお考えても理不尽にしか思わんのは私だけではないと思います。しかしこれをやる
なとかやるとかゆうんじゃないで、まずおたくらの職員の「・・・(判別できず)」
ですね、これ市民の税金つかうんですよ、市民の税金をコンサル。市民の税金に
例えば地域の振興、産業の振興にお金つくんなら市民も納得してもらえると

思います。これ誰かが納得せんなんがためにしてる事業としか映らないんですよ。柴田、あの課長わかると思うんやわほんなかしこかったら、ね、ほれやのにこういうことを強調して、ご存じのように大阪市なんかはふり府立も市立も一緒にしようというてるさなかに、またバイオ大学も定員割れてるなかで、いろんな話がこれも2年も3年も前からそういう話が出てるんなら、100歩も200歩もゆずりましょ。まことに不思議でならんのは私だけではないと思いますよ。まずあのいくつもゆわはったけどまずそれから説明して。※2 まくらことばいらんぞ。

柴田課長：はい委員長。

押谷與茂嗣委員：※2 ポイントをポイントをしぼってゆうてくれよ！

鋒山委員長：はい、柴田課長。

柴田課長：あのまずあの仰ってますとおりの一、税金をつかつての検討となりますので、えー、検討をすると、税金を使ってするということは、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) あんなほれちょっとまって、ほれもひとつ、いうの忘れた、ちょ、よろしいか。

委員長：はい、押谷委員。

押谷與茂嗣委員：行政のプロ、おたくら行政のプロですよ。行政のプロがまず職員で研究してからしたかてべつにまだ遅い話とちゃうやろこんなもん急にわいた話、こんなもん、あまりにも急に動くでどっかから力が働いたとしか思わんやろ、物事を例えば予算するとしまた1年後しか動きませんやんか、なんでこんなもんだけがこんなはよ動くんや、こらどっかからゆわれたからお前らしてるんかもわからんけど、あまりにも理不尽やぞ。※2 ほのこと充分理解してしゃべらんだったらあとでつかれるで。さきゆうとくわ。 どうぞ。

柴田課長：はい

委員長：はい柴田課長。

柴田課長：あの、ま確かに税金をつかうということですので、税金を使うということは、えーま市民の皆さんにとってどうかと、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちゃうて市民のみなさんやったらいまゆうてるやな、委員長：押谷委員、押谷委員、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) あいやちょっとまって、はい。

押谷與茂嗣委員：えす、えすじいえす、えすじーすとか、いまのバイオ、カーボンニュートラルとかそういうことやるんなら市民のみいやこんな誰の市民のためや、なにゆってるんや2、3人や5人や一桁や。定員割れしたるんや、ほして、今までにバイオ大学には相当のお金がつぎこんだるやろ！※2 え！おたくら何を考えてるんや！ ほういうの銭の無駄遣い、税金の無駄遣いゆうんや、したらあかんとはゆわんで、したらあかんとはゆわんけど、ほんなもん結果見えたるやん。ほれに上からゆわれたんかどっからゆわれたんかしらんで、自分らの本来の仕事おきざりになって人間の、いくら柴田くんができる人間でも3つも4つも聖徳太子じゃあるまいし、できんて！まず、長浜の基幹産業とか、ほんな長浜の地域のこと

材料にしたエスディジーズとか、今のノークラブ、あのカーボンニュートラルとか、そういうことにしゃくしてやってくれるんなら１００歩も２００歩も譲るわ。こんなことしてないやんか！ほんでなんでこんなことこんなもん税金の無駄遣いとしかゆえんやろ、ほしてこんなもん、コンサル入れてやな、することかいな。まず自分らでもっと研究せえよ。おたくら頭ええんやろ、行政のプロやろ！ちゃあうんか！このことについて答えてくれ。

委員長：押谷委員。

押谷與茂嗣委員：はい

委員長：あの、柴田課長の、あの、答えを聞かせていただいて、

押谷與茂嗣委員：いやこ、答えわかってんねんて、ちゃうて、よくよく

委員長：はいはい、押谷議員のような優秀な方ばかりではございません、すみませんがどうぞ。

押谷與茂嗣委員：どうぞ。

委員長：あ、はい、柴田課長。

押谷與茂嗣委員：※２ ちゃうことゆうたらあかんで！

委員長：ちゃうこと…

柴田課長：はい、委員長。

委員長：柴田課長。

押谷與茂嗣委員：※１ 言葉でごまかすであかん。

柴田課長：あの確かにしていくことはたくさんあります。その中であの大学っていうところも、

押谷與茂嗣委員：※２ （割り込んで）大学て、ゆうてん！※２ さきわしがゆうてること答えんかいや！エスディジーズとか、今のノック、カーボンニュートラルとか、そのことが大事でないんかい、※２ どっちが大事や！

柴田課長：もちろん大事です。

押谷與茂嗣委員：なんで…（聞き取れず）ほなほのこと先言わんかい、ほなおかしいやないかい。これありきで物事ゆうでわしゃあかんて、

委員長：押谷議員。

委員長：押谷議員申し訳ない、あの、まず柴田課長の、はいご説明を伺いたと思います。

押谷與茂嗣委員：※１ お前言葉上手にいうけどほらあかん！魂が入ってない。

柴田課長：委員長。はいあのエスディジーズ、カーボンニュートラルもちろん大事でして、取り組んでいく必要があり、あります。で今回大学の検討していくというところの予算をあげさせていただきとりますけども、ま大学につきましても先程申しましたように、誘致に対しましてたくさんの方の思いもありますし、えー当時長浜市としても、えー負担金をあげても誘致をしてきております。で、この時代にまあ若い人が減ってきているという課題がありますので、そこでやっぱ長浜市として大学というのはもう一度重要、重要なのかどうかというところとか、ま、どどういった連携をすることで長浜市の将来につながっていくかとい

うことの検討をしたうえで、ま、あのこれからの厳しい時代の中であの、こういった形があるべきかというところを、ま、検討させていただきたいという予算でございます。

押谷與茂嗣委員：委員長。

委員長：はい、押谷議員。

押谷與茂嗣委員：ほれはおたくが自分で自己満足してゆうてるだけの話や。ほんなもん、※2 1 定員割れしてるところに誰が来るんや。長浜から何人いってるんや調べたるか？※2 え！調べ、調べてるやろ、知ってるやろ、ほれいわんかい、ほれなら。ほんなもん、助けるのはええで、ほんなら、長浜にはあと文教短大いうところもあるわけや、ほなほこもゆうてきたらせんなんで。ほれより、今長浜に肝心なのは幼少中の高校までの子供のやな、一生懸命考えてるのは、次代を担う子供たちの学力の向上も含めて、いろんなことに、あの、投資するんならええで。ほれしてなんの長浜市にメリットあるんや。※2 あほなこと考えてたらあかんぞ、お前ら。これありきでとお、これで、これで近づけてこう近づけてこういうことがみえみえやんか。これがわしはまこ不思議やということゆうてんねん。長浜市の幼少中子供たちのことを一生懸命ゆうてくれてくれてるんならええで。ほってこれもふってわいた話やんか。今までこんな話出たったか。去年ほんな話したか。してないやろ、※2 総合政策課どうや！おいゆえ！去年ゆうた？

柴田課長：はい、あの、委員長。

委員長：はい、あの

柴田課長：あの私は、

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで） ※1おい、ゆうたかゆわんだけの話や、※2 しょうもない話するな。

柴田課長：あのバイオ大学からのご提案あつてからのお、ですね

押谷與茂嗣委員：ほうやろ、委員長

委員長：はい、押谷委員

押谷與茂嗣委員：※2（かぶせるように）ほらおかしいやないかい、なんでこんなことだけすぐ取り掛かるんやいね、どっかから力はたらい、働いたゆうたらええんや。ほんなもんこんなもん自分らでもっとさき研究せんかい！児童数がどういう、シュミレーションゆうた、例えばバイオ関連の企業でもスポンサーについたるとか、タカラバイオとかいくらでもバイオの会社ようけありますわ、え！バイオ見てってみい、ほんまもん6次産業ようけはいっとるやないか、ほんなもんバイオてゆわんやん、ほういうことも精査しながら、精査せんといてバイオ大学を公立化せんなんのやという、意図が見え見えなんです、※1 こういうの頭かくしてどっから隠さずという言葉あるんですわ、柴田じ長、意味わかってる？まず高専から順番に、あーたぶん、たぶんほういくやろなとわいらもシミュレーション描いたった、ほやろ？高月中！北高跡地！こーあの今の、バイオ大学の駐車場！ほんで最後はこれかよ、ほんなもん議会を、ちょっといかなこと、二元代表制を無視してるわ、はっきりゆうて。これも、去年から出たるんならええで、最初から出たるんならええで3月に。出てないやんか

い。最初はバイオ大学でなしに高専はあっこにしますんやて、ほんで最後のこれかい、ほんなおたくらのみえみえやんか。ほんな話に議会はやな、二元代表制の片棒かついでやな、ほんなこと、イエスマン、イエスマンちゃうぞ、議会の我々は。※2 わーったる？まずほのことに答えて！

委員長：はい、その点いかがですか、柴田課長。

押谷與茂嗣委員：※2 んな答えられんはずや、答えられたら、大したもんや！

柴田課長：はい。委員長。

委員長：はい柴田課長

柴田課長：あの一、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) あの一であろかいや、ほんまのことゆえやはよ！

柴田課長：あのみ、あの、高等専門学校の話もちろんありましたけども、それはあの、ま時期がちょっと、あの重なってましたので、あのそういったところ、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 時期が重なったて、重なったとこに持ってっただけの話や、※1 嘘、嘘ついたら、目が動いたる嘘ついてますて目に書いたるやないか！

委員長：いやいやいやいやいや

押谷與茂嗣委員：あかんて！

委員長：あの押谷議員、

柴田課長：こちらとしてはあの高専の話とはまた別で考えておりますので、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 別でってほななんではな高専、ほなバイオ大学の駐車場てほんなとこもってく、ほんなことできるはずないがな、ここでちょっとしたかかわりあいをもってやってこて、※1 ほなおたくらのゆうてるなんやら根性は見えたるてあかんて、そんなことあかんて。

委員長：あの、高山委員

高山委員：今の指摘をされていること私もまあかんが感じてはいるんで、次のもうひとつの債務負担行為、これもあわせて関連しているのもう説明をして、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) (・・・マイク通さず聞き取れず) 債務負担行為ほないつしよのことやん、コンサルいれて、お金を先みよて、なんの説明もない、わしもさきゆおうと思ったんやけど、おたくの言葉とて悪いけど、さきお金みよて、ほなおかしいて！議会に高山さんあったかこんな話バイオ大学のこんな話、去年なかったやろ、

高山委員：まずほんでこの説明を終えてから、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 終えてからて、聞くまでもないてこんなこと！こんなこと聞くまでもないて、みえみえやんか、ほんで聞いたら、聞いたら！

高山委員：説明はあったっていう前提でいいんですか。

押谷與茂嗣委員：聞いたら期待もたすであかんて、※1 職員ちゅうのはちょっと聞いたら、もーほんなもん議会なんてみな認めよおるくらいに思とるて、顔に書いたるやん、ほれと一緒にすわ、1千百40万債務負担行為でみてるんや、さきお金をみて、ほれからいろいろ

ろ説明するてほんなばかげた話はないと思うで。まず事前にやね、はようからこの話があるんならいいですよ、高山さん去年聞かありましたこの話、聞いてやありませんやろ、聞かあった？聞いてやあれんやろ、ほら我々も聞いてない、ほらちょっといかなこと乱暴すぎるわやり方が。※1 政治を知らんもんがすることやこれは。ほら柴田くんは上手にしゃべるかしらんけど、ほこへもってこうもってこうとすることがみえみえやほんなことはやったらあかん！※1 お前の本来の性格がいじまがったる！ほらあかん、※1 もっと真面目にゆえ！どうぞ！

委員長：はい、柴田課長

柴田課長：あの一、今回ご提案させていただいておりますのが、あの一、ま長浜市にとって大学がだ、だ、大事だという、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちょ、ほんな話はほんな話は！

委員長：いやいや

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほんな話はなんべんも聞いてるやん、

(中川勇副委員長が話し出す。マイク入っておらず聞き取れず)

押谷與茂嗣委員：うるさいな副委員長、※2 だまってんかい！お前にゆうてんやんか！

委員長：課長のご答弁を、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 課長のゆうてる話はさっきからおんなじ話、聞きたくないってゆうてるやんか、

(副委員長が話す)

押谷與茂嗣委員：※2 お前は黙ってなあかん！

委員長：はい、あの、課長のご説明を、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほやろ、柴田君、※1 お前の話はおんなじ話の繰り返しやんか、※2 ほんな話術でわいらだまされんぞ。ほんな無駄遣いをなんでするんや、ほんなに錢があるんかいや、コンサル入れて、ほな子供の教育力にお金つこたったらええやんか、ほなまあ定員割れしてやなあ、どんどん児童数が減ったるなかでやなあ、なんでほこまで、公立？ようゆうてるわ、※1 あんなもん1トンの車に10トン載せるのと一緒や、動きもなにもせんわ、ほれと一緒に。ほれにおたくらはなんでほこまでもう意地になるかっちゅうことがもう私は理解できない。ほのことに對してもっときちっと、公立はせんなん、公立をせんなんならほんならよその市町がしてますかいな、みな合併合併でいったるやん、東京もほうやし大阪もほうや※1 お前、まちですらほうやで、※1 こんな田舎に誰が来るんや、ほしてましてや琵琶湖線がやな、1時間に1本になってもたるんやん、これの誘致活動にお金つかうならまだしも、ほんなもんできるはずないやろ、なにを考えてるかっちゃ！

委員長：あの、押谷議員の熱意あるご質問に對してもしっかりとそして明確に完結明瞭に柴田課長がお答えいただけるものと思っておりますので、ご答弁お願いいたします。

柴田課長：委員長

委員長：はい、柴田課長

柴田課長：あの今回の公立化というお話しありますけども、そちらをあのしてるっていうふうに決めてるわけではございませんので、あの、それを、検討していくための、えー、今回予算という形でなとります。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 無駄遣いやんかいな。

柴田課長：で、それがあの長浜市がやっぱ大学がこれからの時代に必要かというところで、そこを少ししっかりと検証して行って、あの、さっきあの、小中の話もありましたけれども、高校も、定員割れの傾向もありますし、大学もそういった状況の中で確かにほのこれからの時代に地方でそういう高校大学をえー入学者を確保していくっていうのは難しい中で、ただ、若い人がいるまちにしていく必要も大事ですので、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 違う方法がある。

柴田課長：いや、いろんな方法があると思います、で、今回やっぱ大学という視点でもっかい地域とのあり方を検討したいと、いうところで、あの一、あの一、予算をあげさせていただいておりますので。そこをしっかりと検討したうえで、結果どういう形になるかっていうのは、えー多くの場で議論して行って、決めていったらいいかと思います。

押谷與茂嗣委員：税金の無駄遣いやな。はい。

委員長：はい押谷委員。

押谷與茂嗣委員：ほしたらなんでこれ今年5月にでて、すぐさまなんでこんなトントン拍子にやってるん？もっとほかのことで、1年も2年も前からゆうてることで動いてないことまだたくさんあるでしょ。あまりにもまご不思議な話やんか、ほのことに對して答えて。なんでこんな迅速にやるんやい。トップダウンできたるんか、あーおまんきかなんだら、副市長、副市長どうや、教えて！答えられんか、ほなええわ。※1 お前、どうや、柴田君！答えて

委員長：柴田課長

柴田課長：あの確かに、することはたくさんありますけど、あの、こちらとしては大学のこともしっかりと、

押谷與茂嗣委員：※2 (さえぎる) 大学のことなんて定員割れしてるてゆうてるやんか！

柴田課長：はい

押谷與茂嗣委員：まず定員割れしてるのはどういうところが原因かちゅうのはまず自分らの内部で調べるのが先やろちゅうんやな、なんでコンサル入れ、てコンサルみたいなの、なんで銭もうけを、してもらふんならええで、おたくらで十分調べられる話やんか、。ほうゆうこともせんといててなんでさっきの教育委員会の話にもどるけども、ICTとか、AIドリルとか、なんでほうゆうものに全部頼るんやいな、もっと先生が心をこめた教育をしてくれてゆうてるんと一緒にやな、おたくらもっとハートでやな、ものごとを進めなあかんよ。こんな急に言われた話やろがい、去年からゆうわれたかい、去年の12月議会でゆうた？こんな話。聞いてんで。※2 どうや、ゆうたるかい、ほのことに答えて、ゆうたるか、どうや！

委員長：あの、この、今委員が仰ってる、なぜこのタイミングなのか、ということを明確に

お答えください。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ひとつも答えてんが！

委員長：あの、答えなければ前に進めることができません。課長よろしくお願いします。

柴田課長：委員長。

委員長：はい、柴田課長。

柴田課長：はい、まあ大学の経営が厳しくなってるなかで、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで)（鼻で笑う）ああほうやな、

柴田課長：厳しくなってる、あの一、まあより早いうちに手をうっていく方が大事なかな
というところで、あの一、今回上げさせていただきました。

押谷與茂嗣委員：委員長。

委員長：はい、押谷委員

押谷與茂嗣委員：あもう結論でたるやん、大学を助けるために、してるていうことにとれる
やん、とりかたによって。ほんな話おかしいやろ※1 お前、お前どこの職員や！長浜市の
お前ら税金で生活してるんとちゃあうんか！お！バイオ大学からもろてるんか、どうや、
ほのことまず答ええ！どうや、バイオ大学から給料もろてるんか！市民の税金で給料もろ
てるんかどっちや！

委員長：柴田課長

柴田課長：はい、市民の税金からいただいています。

押谷與茂嗣委員：ほなら市民の立場にたつて役にたつことせなあかんやろ、なんでバイオ大
学の、大学も大事やで、当初にようけ、市は投資したるやんか、なんでほの、おかしいと思
わんか、3つ高専の候補地あげて、最後にひっかかった、ああん、横から、直球じゃなしに、
カーブ投げてきたんと、みんなゆうてたんや、ほんなみえみえやんか。去年から話だしてく
るんならええで、ほんなもんなんではほんな話を出すんや、おかしいやろ、ほういうのをなん
やら劇てゆうんや、どうぞ！

押谷與茂嗣委員：※2 答えられんやろ、答えられたら大したもんや。

柴田課長：委員長。

委員長：柴田課長。

柴田課長：あの一、ま、救済をするためではないので、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちゃうやん、救済やんかいやちゅう、※1 あほな
ことゆうたらあかんで、定員割れしてきて、大学経営が厳しなってきたから、公立でなんと
か、いろいろいっしょにやっていきましょって、ほんまもん※1 お前まぎれもない救済や
んか、取り方によつたら、ほら、能動的なとりかたやら、なんや、べつの取り方いろんな取
り方ある中でやね、ほらちょっとおたくのゆうてることは※1 まやかしで、その場のがれ
の返答としかとれませんよ。ほんなもんはつきりしたるやんか、ほんなもん、どんどん児童
数減って、くるはずないもん、そのシュミレーション、まず職員でやってくれてゆうてんね
ん、やったらあかんってゆうてるんちゃうわ。なんで、いきなり、あの税金を投入してやね、

コンサル入れて、プロポーザルしてて、ほんな荒っぽいやり方おかしいやろってゆうてんねんや、あれやぞ、お金やぞ、お金あり余ったるんか、※2 おい財政課長！お金ほんな裕福なんか、長浜どうや、どうや、裕福なんか！

河瀬課長：委員長。

委員長：はい、河瀬課長

河瀬課長：決算概況でもご説明しておりますとおり、今の状況では健全な体制ではありますが、それを維持していくことが大事だと考えております。

押谷與茂嗣委員：ほやろ、ほんなもん大学ちゅうようなもんはほんなもんお前、ちょろっぽいお金ではいかんで、お前らほういうことをシュミレーションもせんといて、ただあるところからトップダウンで出てきたかどっかから話が出てきたんか知りませんで、もっと、吟味するならまず内部で協議してからやってくれえや、内部で協議して、ま、明るさが見えてきたでこれってゆうんなら100歩も200歩も理解しますわ、したらあかんてゆうてるんちゃうぞ、※2 ゆうといたる、柴田くん、言うてる意味わかる？したらあかんてゆうてへん。するんならきちっとまず内部でおたくらみたいな優秀な職員がたくさんおられるんやからそこでプロジェクトチームを立ち上げて、調べてから、次のステップにいったかて別にここまできたら50歩100歩やろ、なんでほれができんのや、※2 できん理由ゆうて！
ほんなんゆえよかい！

柴田課長：はい委員長

委員長：柴田課長。

押谷與茂嗣委員：※2 （割り込んで）ゆえんてゆええや、ゆえたら大したもん、嘘ついたらあかんぞ、議事録に残るんやから。

委員長：はい、柴田課長、答えていただけますか。

柴田課長：はい、もう一度よろしいですか。

押谷與茂嗣委員：なんでえや、今のこれをするのは悪いとはいわん、したらええて、まず、自分とこの優秀な職員がおられるんやから、まず、職員できちっとある程度のところまで調査してから、これならごーいけるやろと、目安をつけてからやらなあかんてということや、いきなりやな、ありきで進んだらあかんちゅうんやて、やめるにしたかて、やるにしたかて、ほんなもん一千万のお金がどこにふってわいたるんやい、※1 お前ら ※2 税金やぞ。分かったるんか。ほんなもんおかしいやろ。ほんなもん、※1 お前んとこ、※2 自分らで、先、検討せえや、してからの話やろ、ほしてやまして議会に唐突的にゆうてきた話やし、去年から、この春先からゆうたるならええで、あまりにも、そう思わざるをえんやんか、5月から学校からゆうてきたと、な、まあほれもいろんなことあるでよかる、政治的なあれで。しかし、検討するならべつに職員でも十分できますよ、一回目の調査くらいは。優秀な職員がやあるんやで、ちゃあうんか。※2 おたくらする気がないんかい。錢や税金やら使こたれってほんなスタンスでは、市民はたまったもんでないぞ、どうぞ！

柴田課長：はい、委員長

委員長：柴田課長

柴田課長：はい、あの一、もちろんあの一、職員の中でも検討してまいりまして、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで)まして？してへんて、ほなどうしたんや、※2 ゆうてみい。

柴田課長：まああの、そうですね、まず、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで)口だけ踊ったるだけや！

柴田課長：まずあの経営状況でありますとか、あの、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで)ほんなん見たらわかる

柴田課長：これからの時代に必要な大学はどういったところで行くかというところで、え一、あの一、まずは大学が必要かどうかというところのま検証もありますし、それを、まその地域としてどういった形でそのしていくべきかということ考えた中で、あの一、もちろんその一、え一、メリットもありますし、まリスクもありますので、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで)リスクが多いわ

柴田課長：で、まその中で、そのより専門的な経営的なシミュレーションでありますとか、経済効果とかを踏まえたうえで、あの一、判断していきたいというところで今回、え一、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで)もうええわ、委員長、

柴田課長：コンサルあげさせていただきました。

委員長：はい、押谷委員。

押谷與茂嗣委員：何回したんや、ほんなもんしてへんなんにもしてへん、なかで座談会でしゃべってるだけの話や、ほの前にバイオ大学の公立化に向けた検討委員会立ち上げたんか、上げてへんやろ、ほんや※1 まやかしの言葉ゆうたらあかんてゆうんやて、ほれが※1 魂が入ってないし、その場逃れの返答やっちゅうんや。ほやろ？例えば家にしたかて、まあ家ぐらいならすぐ建てるかしらんけど、なんか、プロジェクトする場合は、あの建設チームちゅうの立ち上げて、まず、内部でこれがいろいろあれやこれやゆうといてほんでこれがこうやって、専門家にゆだねて、するのが筋やろ。今回いきなり、んなもん、強硬にやな、コンサル入れてやるて、コンサルで税金使うんやぞ、ほんな錢あるんやったら子供の教育にお金使たってくれ。バイオ大つこたらあかんとゆわんけど、※1 ほんな海のもんとも山のもんともわからんもんにやな、使うこと自体わしはおかしいと思うで。※1 お前家でほんなことするか？例えば、なんか家建てる場合に、※1 お前人の金やでほういうこと言えるんやろ、いやほんで答えてくれ、※2 答えいや！

委員長：高山委員。

高山委員：ちょっと角度違うところあるんで、

押谷與茂嗣委員：どんな角度でもゆって360度…（聞き取れず）

高山委員：あとのほうもふくめて今議論がなってるので、私も聞きたいんですが、この有識者会議でゆうのは、ま、市の中で言われているように、担当課がもちろんまず考えるべきですよね、庁舎の中でも。でも、客観的に判断するには、外部の方からの冷静な意見というの

が必要やと、そういう意味での有識者会議やと、理解できたんです。ここはいいんですけど、同じ時期に、あるいはそれよりも遅い形で令和6年3月までの中でコンサル入れて意見聞くと、これと有識者会議の意見とのどこがどう絡み合っているのかがまったくわからない、私もほの、後半のコンサル入れてなにをどれだけあのやるんかというのがあんまり見えてこないのでも、前半だけは、有識者会議だけはよしとしても、この、両者の関係がわからないんです。

柴田課長：はい委員長。

委員長：はい、柴田課長。

柴田課長：はいあの、コンサルの方につきましては、有識者会議をえー予定ではえー5回予定していますけれども、まそれをあの進めていくなかで、よりあの大学の経営でありますとか、より専門的なえー分野になってまいりますのでその経営の分析とか、えー、ま、メリット効果を、デメリット踏まえたうえでの、経済効果でありますとか、分析でありますとか、まそういったところを、ま出したうえで、えー有識者会議の中で議論いただきたいと、いうところで、ま、同時進行で、そこを進めていくっていうところで、えー、同時にはさせていただいております。

押谷與茂嗣委員：委員長。

委員長：はい、押谷委員。

押谷與茂嗣委員：※1 ほれこそ「やらせ」や。はいやあ身びいきの委員会という。これこそ御用委員会ということが懸念されます。ほれはほこまではいかんというのはまず職員力があるんやから、職員の行政のプロがよってやあるんやから、柴田君を先頭にな、※2 まずおたくらで先検討してこいや。それを一回委員会で出してこいや。ほれからにしようまいかい。ほうでないといわいら市民に説明できん！ほやろ。まずおたくらがそういう具合に熱い思いをもってやあるのはわかる。理解しよ。ほんなら、こういうことでこういう絵かいたんで一回あのその発表ちゅうか、その設けたらそら喜んでしてしてもらいますよ、途中でほんならこら専門的なことなので、ちょっともそういう専門家に来てもらうで聞こうてゆうんなら話は分かるけど、おたくらまや丸投げしてもてほしてコンサルてて。ほな一あのーコンサルてておまえ執行部よりのやな、どうでもノミネートできるやんけ、公募で、公募で選ぶのはおまんらやろ。ほんなことにおしらだまされんで。ほらあかんて。※2 まずおまんらからするってゆええや。ほったらすつと通るがな。ほやろ？おたくらが行政のプロ集団でやってやあるんやから、プロ集団がよってやってやったらええやん、優秀なんおるやん何人も。お？役所の※1 お前総合政策課ゆうたらな、ブレーキとアクセルを上手に踏まある課やて、みんな教えてほしいてゆうてる課やて知ってる？ほんで※1 お前らほこにいるんやで、優秀なスタッフがそろってやあるんやから、ほこでやったらええやん。ほれからにしようまいかい。別にほれで遅いことないやろ。50歩100歩やろ。あかんのか、ほれに対して答えて。

柴田課長：はい、委員長

委員長：柴田課長

柴田課長：もちろんあの、行政のプロとしてそこをしっかりと検討したうえでえ一進めていく必要がありますので、ま、それはあの一、していく中でありますけども、ま、そのあのよりその数値的なものとか、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちがうがな、いらんことを、ほのことはするのかせんのかゆええや。せんならせんでまたこっち聞きたいことがあるで。

柴田課長：はい、委員長。

委員長：はい柴田課長。

柴田課長：はい、もちろん行政としてしっかりやっていきたいと思います。

押谷與茂嗣委員：ほなら先、委員長。

委員長：はい、押谷委員

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長にかぶせる)ほなら今の言葉どおりでやね、行政から優秀なもんがいるからそこで検討してもろてやってもろたらよろしいやん、委員長、ほうちやいます？今、柴田くんから、発言あったとおりますよ、そこで検討してもろて、一回また委員会出してもろて、ほんならこれはおたくらでプロでなけなあかんのちゃうかなったら次のステップへいったらええやん、いきなりこんなもん、あの、コンサル料みよって、荒っぽいわやり方が、完全に議会軽視や、二元代表制、理事者側は執行権がある、議会側はやな、議決権とやなあ、調査権があんねんぞ、わかってる？ほれを、

委員長：押谷委員あの、

押谷與茂嗣委員：はい

委員長：のちほどその点について委員会の中で議論をさせていただきたいと思いますので、はいはい、あの

押谷與茂嗣委員：おーじゃほうやけど、あの、気い持たすと悪いでえ、

委員長：気い持たす…

押谷與茂嗣委員：気い持たすと悪いでえ、ほんでそれははっきりすると、しちょうもろたらやるとゆうたやろ、ほんでほれはけつだけとってくださいな。

委員長：気い持たすと…

押谷與茂嗣委員：ちゃうがな、委員会でも優秀な職員でもやれんことないとゆうたんやから、柴田君が、ほれで決めたらよろしいやん

押谷與茂嗣委員：※2 ほやろほうお前ゆうたやろ、ゆうたやんか今。

委員長：はい柴田課長。

柴田課長：あのもちろん今、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) せんてゆうてんちゃうやん、するてゆうたやん、※2 もうしゃべれんでええて、しゃべったら…。

柴田課長：今もちろん職員、職員、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ああもうしゃべっていらん、ええてええて、しゃべ

っていらん。もうするてゆうたんやでわかったでもう帰れ、もうええて、ええ。

委員長：議論が平行線をたどっています。

押谷與茂嗣委員：※2 おまんも、ええぞほんなもん部長ももうしゃべっていらん、

委員長：いやいや、あの、

押谷與茂嗣委員：※1 もうええ、もうイエスマンいらん

委員長：いやいやあの、福永部長

押谷與茂嗣委員：※1 ほんな部長いらん、ほんな部長みたい分かってないでええ

委員長：ほんなことない、福永部長。

押谷與茂嗣委員：※1 部長あかんあかんほんなもんええて、あと5か月しか残ってないもん(者)しゃべってもろてもしゃあない！

委員長：部長お願いします。

福永部長：はい、今ご確認の内容ですが、今日の委員会資料4ページにもございますように、えー職員による、これは関係課の職員ですが、財政担当職員、人事課の職員あるいは総務課の職員そういう職員によりまして合計3回のあの、提案の内容に関する勉強会を開催したという経過が、あーございます。まあそれを踏まえたうえで、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちよっとまってえな、ほんなんなら、委員会に報告したかいな、ほれを、※2 聞いてへんぞ！

福永部長：委員長

押谷與茂嗣委員：※1 ほれをお前らマスタベーションちゅうんや、自己満足の委員会ちゅうんや、※2 委員会に聞いてへんぞ！

委員長：福永部長、はい、その点いかがですか

福永部長：そのあの職員による勉強会と申しますのは、大学から提案がありました、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちゃうんやほういうことをしましたいうことを、福永部長！

福永部長：はい。

押谷與茂嗣委員：※2 議会報告したか聞いてるんやないかい、ほのこと答えんかい！

委員長：押谷議員聞いてください。福永部長。

福永部長：委員長、えー、その勉強会の内容については報告しておりませんが、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) してへんのやな（聞き取れず）、※1 ほんなもんなめとるんや！

福永部長：それをする経過の中で、より専門的で高度な検証が必要と、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほんなもんあかんておまんらが自己満足の話や。あかんで、勝手に※1 お前らがゆうてるだけや、あかんで、あこかい、

福永部長：判断させていただき、今回補正予算の提案をさせていただいたということでございます。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) じこまんてお前らがやりたいようにやってるだけの

話や、※1 あほなことゆうたらあかん、ほんなん茶番劇ちゅうんや。※1 あほなことゆうったらあかんで、

委員長：押谷委員あの、

押谷與茂嗣委員：委員長わかるやろ、

委員長：はいはい、

押谷與茂嗣委員：委員会にね報告してくれるのはええで、3回したか4回したかなんもわからへん、内容もゆわんといてて、※2 いまゆうたはかい言いよったんや。先にでもこれゆうてくれるんなら100歩ゆずりまっせ、どどのつまってきたからゆうてるんや。ほんなんも魂の入ってないことで我々議会が御用聞き議会であるまいし、ほんなことは聞いてられんわ。

委員長：あの、委員会の報告は随時して詳細かつ明瞭にあのご報告いただきたいと思います。

押谷與茂嗣委員：しとらへんで、3回しましたて、ぜんぜんしてませんて認めましたやん、ほんなことここで我々が議論する暇はないですよて。もう次いきまひよて。※1 こんなもんもうええてこんなもん聞いてられんて。もういやなことはあとのこして。もうええて、

委員長：よろしいですか、ほかに、高山議員、ははは

押谷與茂嗣委員：もうええて高山はんやめとけていっしょやて！

押谷與茂嗣委員：※2 やめとけやお前もう、やめとけてゆうんやて、やめとけてもう！

委員長：いやいやいや、はい高山議員どうぞ。

高山委員：有識者会議とコンサルとの連携ということだけはわかったんですが、日程をみると、有識者会議の報告は8月にもう出ますよね、つまり、報告を受けながら、コンサルはこれを受けて、さらにそれを受けながら決めていくということになるということですか。

柴田課長：委員長

委員長：はい、柴田課長

柴田課長：もちろん、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ゆうてることは※1 まやかしやて、

委員長：押谷委員聞いてください。

押谷與茂嗣委員：(マイクとおさず話している)

委員長：聞いてください。

柴田課長：一応あの、方針を決めていくまでのコンサルをお願いしたいと思っておりますので、あの有識者会議の報告っていうところは一つの節目でありますけども、そのあとの具体的な決定していく過程でもかかわっていきたい、いただきたいと思います。

押谷與茂嗣委員：委員長。

委員長：押谷委員、はい。

押谷與茂嗣委員：3回しましたけどなんにも聞いてまへんのやで。完全に無視やんか。いま、ゆうてもどどのつまりつまってきたからゆうてるだけの話やん。小出しやん。柴田部長柴田

課長もほうや、おしてもしらん、ほんな話に議会がやね、振り回されてられんわ、次いこ、

※1 もう帰ってもらお、もう聞いたっていっしょや。もうええ、聞いてられん

委員長：今後はしっかりと報告をいただきたいと思います。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほんなんおかしい、聞いてられん、

委員長：他に質問はございませんか。

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長の許可を得ず) 福永部長わかるやろ、先言わんかい！分かったったら。ほうやろ！ゆうてる意味わかるか。ちょうまでえや！聞けえや！もうええてゆわんでも、さきにゆうんなら100歩ゆずったるで、今どどつまってからゆうてるやんけ、ほうゆうのは後出しじゃんけんで勝つとおもったら間違いやで。もおええて。もおええ。(大声で) おおええて！いらん！帰れ！

委員長：いやいやいや、なにか、話したい事が、

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長の許可を得ず) もうええて、※1 お前にしゃべってらんと！あ5か月や、指折り数えて待つてよ。ほんでええで！

福永部長：今回の補正予算につきましては、長浜市民の皆さんにとって大学と地域のあり方がどうあるべきかを検討するために必要な予算という判断させていただき、提案をさせていただいたものでございます。よろしく願いいたします。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほんなもんいっしょや、※1 あんなもん聞いてられんわ！

委員長：はい、ではほかにごございませんか。

押谷與茂嗣委員：(マイクとおさず) ※2 帰れ帰れ！

委員長：他に質疑ございませんか。はい、なしと認めます。当局のみなさまご苦労さまでした。

副委員長：さきの債務負担行為ええの？

委員長：あれも含めて。